

第 11 回 イーストアングリア大学農村開発プログラム

はじめまして。

イーストアングリア大学農村開発修士課程で勉強中の桑垣隆一と申します。

イーストアングリア大学はロンドンから東方に電車で2時間、ノーウィチというノーフォーク地方の町にある大学です。街は小さいですが、12世紀に建設されたイギリス国内でも有名な大聖堂があり、歴史の趣のあるよいところです。大学は街の中心部よりバスで20分の距離にあり、敷地内に湖のある自然環境に恵まれたところです。

現在イーストアングリア大学の開発コースでは、24人の日本人が(2003年12月時点、マスター、ディプロマを含めて)勉学にいそしんでおります。修士課程(Taught postgraduate degrees)は必修科目と選択科目からなり、計6科目を取ることになります。たとえば、農村開発科の必修科目はジェンダーと農村生活(Gender and Rural Livelihood)と農村政策(Rural Policy)です。ちなみに私は選択科目として、前期は開発のための教育序論(Introduction to Education for Development)とジェンダーの概念と討論(Gender Concept and Debate)、後期は開発のための教育政策と実施(Education Policy and Practice for Development)と社会分析のための研究法(Research Skills for Social Analysis)を選択しました。(詳しくは <http://www.uea.ac.uk/dev/> を参照してください。)

授業は前期、後期とも12週からなり、査定は2500～4500文字のエッセイで主に決まります。(コースによって査定方法は違います。) 英語に自信のない方は、Dean's office に文法の添削を無料で依頼することができます。また、Centre for English Language and British Studies は留学生のために無料の英語教室を開いています。(Academic Writing, Pronunciation など。)修士論文の締め切りは9月の1日、文字数は8000～12000文字です。フィールドリサーチに行くかどうかは人によります。ちなみに私はフィールドリサーチにいかず、図書館ベースで論文を書く予定です。

留学生は主にアジア、アフリカ、ヨーロッパ、北アメリカからで、私の大好きな南米からの留学生は殆どおりません。殆どの生徒がNGOまたは援助機関での経験があり、いろいろと情報を交換することができます。

わたしがなぜイーストアングリア大学を選んだかというと、別に特定の教授に興味があったわけではなく、単に協力隊時代に読んだ海外大学院特集から選んだだけです。(イーストアングリア大学の日本人の名誉のために一言。事前に教授の論文を読んで同大学を選んでいる学生もいます。)

最後に現在NGOまたは援助機関で働いて、大学院進学を考えている人へ。私は青年海外協力隊の一員として、パラグアイの農業高校で2年半活動しました。その時に感じた疑問を今一つ一つ解決して

います。(なぜ南米では大学卒の肩書きを大切にするのか? など。) この、なぜという疑問を一つでも多く持って大学院に入学すれば、とても充実な大学院生活を送れると思います。

もし、もっとイーストアングリア大学に知りたいという方がいれば、個人的にメールを送ってください。できる限りお手伝いします。

2004 年 3 月 14 日

イーストアングリア大学農村開発修士課程

桑垣隆一 (くわがき りゅういち)